

当PDF文書は上に示されている企業に関する詳細レポートのアップデート版として作成されたものです。  
 詳細レポート全体につきましては[弊社ウェブサイト](#)をご覧ください。

2020年11月12日、ナノキャリア株式会社は、2021年3月期第2四半期決算を発表した。

四半期累計 (百万円)	20年3月期				21年3月期				21年3月期 (進捗率) 通期会予	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q		
売上高	146	294	435	553	129	193			57.2%	338
前年比	247.8%	34.7%	29.6%	11.3%	-11.5%	-34.2%				-38.9%
売上総利益	125	239	362	475	120	171				
前年比	462.4%	35.0%	31.1%	14.0%	-4.1%	-28.3%				
売上総利益率	85.8%	81.4%	83.2%	85.9%	93.0%	88.7%				
販管費	625	923	1,295	1,581	334	682				
前年比	-5.7%	-16.5%	-26.0%	-28.8%	-46.5%	-26.1%				
売上高販管費比率	-	-	-	-	-	-				
営業利益	-499	-684	-932	-1,106	-214	-510			-	-1,495
前年比	-	-	-	-	-	-				-
営業利益率	-	-	-	-	-	-				-
経常利益	-540	-734	-969	-1,144	-218	-527			-	-1,496
前年比	-	-	-	-	-	-				-
経常利益率	-	-	-	-	-	-				-
四半期純利益	-446	-897	-1,137	-2,010	-219	-2,082			-	-3,043
前年比	-	-	-	-	-	-				-
四半期利益率	-	-	-	-	-	-				-

  

四半期 (百万円)	20年3月期				21年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	146	147	142	118	129	64		
前年比	247.8%	-16.2%	20.1%	-26.8%	-11.5%	-56.7%		
売上総利益	125	114	123	113	120	51		
前年比	462.4%	-26.6%	24.2%	-19.8%	-4.1%	-55.0%		
売上総利益率	85.8%	77.0%	86.9%	95.8%	93.0%	79.9%		
販管費	625	298	372	286	334	348		
前年比	-5.7%	-32.7%	-42.3%	-39.0%	-46.5%	16.6%		
売上高販管費比率	-	-	-	-	-	-		
営業利益	-499	-184	-248	-173	-214	-296		
前年比	-	-	-	-	-	-		
営業利益率	-	-	-	-	-	-		
経常利益	-540	-194	-235	-175	-218	-309		
前年比	-	-	-	-	-	-		
経常利益率	-	-	-	-	-	-		
四半期純利益	-446	-450	-241	-873	-219	-1,863		
前年比	-	-	-	-	-	-		
四半期利益率	-	-	-	-	-	-		

出所：会社データよりSR社作成

\*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

\*会社予想は直近の値。

\*前年比が100%を超える場合は-として表示。

## 販売費及び一般管理費の内訳

四半期累計 (百万円)	20年3月期				21年3月期			
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q
研究開発費	492	695	957	1,152	212	462		
前年比	-7.6%	-21.0%	-32.8%	-35.8%	-56.9%	-33.5%		
研究開発費を除く販管費	133	228	337	429	123	220		
前年比	1.6%	0.8%	3.7%	0.6%	-8.0%	-3.7%		

  

四半期 (百万円)	20年3月期				21年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
研究開発費	492	203	263	195	212	250		
前年比	-7.6%	-41.5%	-51.8%	-47.2%	-56.9%	23.3%		
研究開発費を除く販管費	133	95	109	92	123	97		
前年比	1.6%	-0.4%	10.2%	-9.2%	-8.0%	2.3%		

出所：会社データよりSR社作成

\*表の数値が会社資料とは異なる場合があるが、四捨五入により生じた相違であることに留意。

## 2021年3月期第2四半期累計期間実績

- ▷ 売上高：193百万円（前年同期比34.2%減）
- ▷ 営業損失：510百万円（前年同期は営業損失684百万円）
- ▷ 経常損失：527百万円（前年同期は経常損失734百万円）
- ▷ 四半期純損失：2,082百万円（前年同期は四半期純損失897百万円）

## 主要パイプラインの進捗状況

### シスプラチンミセル（NC-6004）

ライセンス先であるOrient Europharma Co. Ltd.（以下、OEP社）と共同でグローバルに臨床試験を推進している。

欧米地域において、頭頸部がんを対象にNC-6004と免疫チェックポイント阻害剤「キイトルーダ®」との併用による第II相臨床試験として2019年7月に投与を開始した。2020年6月、第IIa相試験の主要評価項目（キイトルーダ®併用時の推奨用量の決定）を達成した。2020年11月には、第IIb相試験を開始した。この試験は、キイトルーダ®単剤との比較試験として実施するものである。

### エピルビシンミセル（NC-6300）

米国で軟部肉腫を対象に第I/II相臨床試験を実施している。対象疾患として第I相パート試験で有効性が示唆された軟部肉腫の一種である血管肉腫にターゲットを絞り、有効性及び安全性を確認する追加試験を実施している。2020年10月には、患者登録が完了した。現在も治験薬の投与を継続しているが、今後、観察期間を経てデータ解析を実施する予定である。なお、同剤はFDAよりオーファンドラッグの指定を受けている。

### パクリタキセルミセル（NK105）

日本を含むアジア地域を対象としたライセンス先である日本化薬株式会社（東証1部4272）から、乳がんを対象に第II相臨床試験を実施中の旨が発表されている。

### 核酸DDS製剤（SRN-14/GL2-800）

治癒的切除不能または遠隔転移を有する再発乳がんを対象に公益財団法人がん研究会有明病院において2020年9月より医師主導第I相臨床試験が開始された。同剤は2020年9月に統合したアキュルナ株式会社と複数の機関が共同研究を進めてきたsiRNAを内包する核酸医薬である。

## 導入パイプラインの進捗状況

### 遺伝子治療薬「VB-111」

2017年11月にVascular Biogenics Ltd.（イスラエル、以下VBL）から国内の開発および販売権に関するライセンスを受けた遺伝子治療薬「VB-111」について、同社が米国を中心にプラチナ耐性卵巣がんの国際共同第III相臨床試験（OVAL試験）を実施している。同パイプラインの国内開発に関し、遺伝子組み換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（カルタヘナ法）に基づく第一種使用規定の厚生労働大臣・環境大臣連名による承認を取得した。2020年3月に、VBLが実施中のOVAL試験に関して、第三者委員会による中間解析において試験継続が推奨された旨が、VBLから発表された。これを踏まえ、同社はOVAL試験に日本から参画する方針を決定し、国内治験開始に向けた各種準備を進めた。

### 耳鼻科領域における新医薬品等の開発候補品（ENT103）

セオリアファーマ株式会社との間で共同開発を行っている耳鼻咽喉科領域における開発候補品（ENT103）については、国内において中耳炎を対象とした第III相臨床試験を実施しており、2019年5月に登録を開始した。同剤は抗がん剤の開発

と比較し短期間で製造販売承認取得を期待できるが、対象患者が例年より少なかったことや新型コロナウイルスの影響等により患者登録が同社の想定を下回り、試験期間の延長を見込む。

### Acti-PRP（血球細胞分離機）

2019年4月、株式会社エイオンインターナショナルから「Acti-PRP（血球細胞分離機）」の国内販売権を取得した。産婦人科PRP研究会の会員施設に対し「Acti-PRP」を販売し、あわせて臨床研究を実施している。

### 新規開発パイプラインの進捗状況

アキュルナ株式会社が研究を進めてきた核酸医薬品のナノDDS技術を用いた核酸医薬品開発を行っている。同DDS技術は、核酸医薬品の生体内での搬送上の課題を解決するとともに、従来のDDSの製造工程が複雑であるという課題を解決するものである。新規パイプライン探索としてのアカデミアとの共同研究や、創薬基盤技術型事業としての企業との協働を推進している。

### 事業開発の状況

当第1四半期以降の事業開発活動として、2020年7月に、同社を吸収合併存続会社とし、アキュルナ株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併を実施することを決定し、2020年9月に実施した。これにより、同社パイプラインおよびパイプライン候補が拡充し、今後は核酸分野の開発、mRNA創薬の一環としてのワクチン開発の推進等、シナジーの実現に向けた活動を推進する。さらに、同合併の効力発生を契機に、研究部門と開発部門の連携と研究開発機能の強化を図ることを目的として、研究開発本部を創設する組織変更を行った。

### 化粧品事業の状況

アルビオン社が販売する美容液エクラフチュールおよび薬用美白美容液エクシアALホワイトニングイマキュレートエッセンスIDD用の原材料を供給している。また、アルビオン社との共同開発製品であるスカルプトータルケア製品「Depth」のインターネット販売および美容室でのカウンセリング販売を行っている。

化粧品開発における皮膚浸透性の研究から、皮膚科領域における医薬品開発の可能性を見いだしており、今後の応用展開を目指す。

## 今期会社予想

今期会社予想 (百万円)	20年3月期			21年3月期		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	下期会予	通期会予
<b>売上高</b>	<b>294</b>	<b>259</b>	<b>553</b>	<b>193</b>	<b>145</b>	<b>338</b>
前年比	34.7%	-7.0%	11.3%	-34.2%	-44.2%	-38.9%
売上原価	55	23	78	22		
<b>売上総利益</b>	<b>239</b>	<b>236</b>	<b>475</b>	<b>171</b>		
前年比	35.0%	-1.6%	14.0%	-28.3%		
売上総利益率	81.4%	91.0%	85.9%	88.7%		
販売費及び一般管理費	923	658	1,581	682		
<b>営業利益</b>	<b>-684</b>	<b>-422</b>	<b>-1,106</b>	<b>-510</b>	<b>-985</b>	<b>-1,495</b>
前年比	-	-	-	-	-	-
営業利益率	-	-	-	-	-	-
<b>経常利益</b>	<b>-734</b>	<b>-411</b>	<b>-1,144</b>	<b>-527</b>	<b>-969</b>	<b>-1,496</b>
前年比	-	-	-	-	-	-
経常利益率	-	-	-	-	-	-
<b>当期純利益</b>	<b>-897</b>	<b>-1,113</b>	<b>-2,010</b>	<b>-2,082</b>	<b>-961</b>	<b>-3,043</b>
前年比	-	-	-	-	-	-

出所：会社データよりSR社作成

同社は、2020年11月に2021年3月期通期会社予想の修正を発表した。修正後の会社予想は、売上高338百万円（前期比38.9%減）、営業損失1,495百万円（前期は営業損失1,106百万円）、経常損失1,496百万円（前期は経常損失1,144百万円）、当期純損失3,043百万円（前期は2,010百万円）を見込む。

前回予想との比較では、売上高、営業損失、経常損失に変更はなく、当期純損失で1,553百万円の損失拡大を見込む。

修正の理由は、アキュルナ株式会社の吸収合併に伴うのれんの減損損失1,553百万円の計上による。同社は、2020年7月に開示した通りパイプラインの追加および拡充、核酸分野の開発、mRNA創薬の一環としてのワクチン開発の推進、優秀な人材の獲得などを目的として、2020年9月に、同社を吸収合併存続会社、アキュルナ株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併を実施した。同吸収合併において発生したのれんには、同社の主たる事業が医薬品の研究開発であるという特性から、固定資産の減損会計の適用に際し将来キャッシュ・フローを保守的に見積もった結果、のれん1,553百万円全額を減損損失として特別損失に計上した。

なお、吸収合併によりアキュルナ株式会社から引き継いだ研究開発等に係る費用については、その他の費用の削減等により、吸収できる見込みである。

### 前期との比較

2021年3月の会社予想は、売上高338百万円（前期比38.9%減）を予想している。売上高の主な内訳は開発マイルストーン収入、化粧品原料供給収入、再生医療用PRP（血小板濃縮血漿）分離器Aeon Acti-PRPの販売売上を見込んでいる。

- ▷ 前期において、NC-6004の国際共同治験に関して、OEP社から開発マイルストーン収入を受領した。今期は前期との比較で開発マイルストーン収入が減少する見込みである。
- ▷ 同社は株式会社アルビオン向けの化粧品材料供給に伴う収益、男性用スカルプトータルケア製品「Depth」の販売に伴う収益を得ている。2019年3月期において、アルビオン社を相手先とする売上高は169百万円（2018年3月期比9.3%増）であった。
- ▷ 2019年4月に同社はエイオンインターナショナル再生医療用PRP（血小板濃縮血漿）分離器Aeon Acti-PRPの国内販売代理店契約を締結した。同社は前期から国内でAeon Acti-PRPの販売を開始した。同社は中期的にAeon Acti-PRPの売上高として年間500百万円規模を計画している。

損益面では、営業損失1,495百万円（前期は営業損失1,106百万円）、経常損失1,496百万円（前期は経常損失1,144百万円）、当期純損失3,043百万円（前期は当期純損失2,010百万円）を予想している。

営業損益は、売上高の減少と研究開発費の増加によって減益（損失額が拡大）する見込みである。研究開発費は1,242百万円（前期は1,152百万円）を予定している。研究開発費は基礎研究の選択と集中により前期に減少し、今期も大きくは増加しない見込みである。

このリサーチメモは、掲載企業の[最新版レポート](#)にも掲載されています。

株式会社シェアードリサーチは今までにない画期的な形で日本企業の基本データや分析レポートのプラットフォーム提供を目指しています。さらに、徹底した分析のもとに顧客企業のレポートを掲載し随時更新しています。

## ディスクレーム

本レポートは、情報提供のみを目的としております。投資に関する意見や判断を提供するものでも、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。SR Inc.は、本レポートに記載されたデータの信憑性や解釈については、明示された場合と黙示の場合の両方につき、一切の保証を行わないものとします。SR Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。

本レポートの著作権、ならびに本レポートとその他Shared Researchレポートの派生品の作成および利用についての権利は、SR Inc.に帰属します。本レポートは、個人目的の使用においては複製および修正が許されていますが、配布・転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。SR Inc.の役員および従業員は、SR Inc.の調査レポートで対象としている企業の発行する有価証券に関して何らかの取引を行っており、または将来行う可能性があります。そのため、SR Inc.の役員および従業員は、該当企業に対し、本レポートの客観性に影響を与える利害を有する可能性があることにご留意ください。

## 金融商品取引法に基づく表示

本レポートの対象となる企業への投資または同企業が発行する有価証券への投資についての判断につながる意見が本レポートに含まれている場合、その意見は、同企業からSR Inc.への対価の支払と引き換えに盛り込まれたものであるか、同企業とSR Inc.の間に存在する当該対価の受け取りについての約束に基づいたものです。

## 連絡先

株式会社シェアードリサーチ / Shared Research Inc.  
東京都文京区千駄木3-31-12  
HP: <https://sharedresearch.jp>  
TEL : (03)5834-8787  
Email: [info@sharedresearch.jp](mailto:info@sharedresearch.jp)